

日本簿記学会ニュース

No. 55:7 / 2013

《部会の経過報告》

第29回関西部会は、平成25年6月1日(土)に大阪学院大学(準備委員長:郡司健氏)にて開催されました。また、第29回関東部会は、平成25年6月15日(土)に千葉商科大学(準備委員長:千葉啓司氏)にて開催されました。詳しい内容は本紙部会記をご覧ください。

《大会のご案内》

第29回全国大会を下記の予定で開催いたしますので、お知らせします。

2013年8月30日(金)～9月1日(日)

立教大学・池袋キャンパス

鵜池幸雄氏(沖縄国際大学)

原俊雄氏(横浜国立大学)

8月30日(金)

清水泰洋氏(神戸大学)

学会賞審査委員会 13:00-15:00

懇親会(第一食堂) 18:30-

理事会 15:30-17:30

9月1日(日)

8月31日(土)

参加者受付 9:30-14:00

高校簿記教育懇談会 10:00-12:00

自由論題報告 10:00-12:30

参加者受付 12:00-18:00

第1報告 10:00-10:35

会員総会 13:00-14:00

第2報告 10:35-11:10

研究部会報告 14:10-16:00

休憩 11:10-11:20

統一論題報告 16:10-18:20

第3報告 11:20-11:55

「簿記の現代的課題

第4報告 11:55-12:30

—取引概念の拡大と簿記の役割—

昼休み 12:30-13:30

座長 佐藤信彦氏(熊本学園大学)

統一論題討論 13:30-15:30

報告者 山田康裕氏(立教大学)

《平成26・27年度研究部会の募集》

平成26・27年度の簿記理論研究部会、簿記実務研究部会、簿記教育研究部会を下記の通り募集いたします。申し出は、研究テーマ・メンバーを明記の上、事務局宛にお願いいたします。締切は、平成26年3月31日です。

- (1) 研究期間は、第30回全国大会(平成26年)会員総会承認から2年です。
- (2) 研究成果の報告は、1年経過後の第31回全国大会(平成27年)における中間報告および第32回全国大会(平成28年)における最終報告の2回となります。
- (3) 研究成果につきましては冊子を作成いただきます。
- (4) 研究部会費は1部会200,000円(年間)です。
- (5) 研究部会メンバーは当学会会員とします。
- (6) 研究部会メンバーの人数に制限はありません。

日本簿記学会第 29 回関西部会記

準備委員長 郡 司 健
大阪学院大学

日本簿記学会第 29 回関西部会は、平成 25 年 6 月 1 日（土）に大阪学院大学で開催された。参加者は 91 名であった。統一論題「簿記・勘定理論の現代的意義」のもとに統一論題報告・自由論題報告・統一論題シンポジウムのかたちで、IFRS 導入等によって変化する簿記教育・簿記実務・簿記理論はいかにあるべきかについて活発な議論が展開された。

統一論題第 1 報告は西館司氏（愛知学院大学）により「勘定理論から見た資産の意味－ヒュックリ、シェアーおよびスガンチーニの所説を例に挙げて－」というテーマのもと、資産にはどのような解釈の仕方があるのかを吟味・整理するために 3 人の著名な勘定学説における資産の意味を中心に勘定図式を用いて比較検討するとともに現代会計における資産概念の固定化傾向を批判するとともに勘定理論の限界についても論究された。

第 2 報告の工藤栄一郎氏（熊本学園大学）は「複式記入の理論的準拠枠としての取引要素説の現代的意義」というテーマのもと、わが国の複式簿記教育の導入過程において一般に用いられる「取引要素説」の形成過程を描出することによって複式記入の理論的準拠枠としてこれを位置づけ、「取引要素説」を近年の会計基準によって新しく要請されるようになった会計処理に照らすことで、複式記入（複式簿記）の理論の行方について展望された。

第 3 報告の和田博志氏（近畿大学）は「資金的 2 勘定系統説の現代的意義－負債評価損益の勘定理論的考察－」というテーマのもと、報告の目的は、杉本典之教授によって提唱された「資金的 2 勘定系統説」が、今日の会計実務に対してどのような影響を及ぼしうるかを検討するための素材として、金融負債の公正価値評価に係わる仕訳（金融負債評価損益の処理）を取り上げ、今日の会計実務における「資金的 2 勘定系統説」の有効性について解明された。

第 4 報告の中田清氏（広島修道大学）は「F. シュミット有機観学説の現代的意義－『財産価値変動勘定』と包括利益計算との論理的関連性－」のもと、

資産および費用の評価にあたって時価を用いるシュミットの有機観学説では取得原価と時価の差額を処理するために、「財産価値変動勘定」が利用されるが、この財産価値変動勘定が包括利益計算と論理的に関連しているのではないかとの観点から「財産価値変動勘定」の意義とそれが包括利益計算に対していかなる意義があるかその論理的な関連性について講究された。

これに続く自由論題報告は、岩崎 勇氏（九州大学大学院）「会計主体論と概念フレームワーク－簿記処理との関連において－」と田中延幸氏（大阪学院大学短期大学部）「複式簿記の本質観－簿記教育の観点から－」との 2 報告がなされ、いずれも今回の統一論題テーマに沿った有意義な報告であった。

統一論題シンポジウムでは座長の戸田博之氏（神戸学院大学 [名]）から過去 10 年間の統一論題テーマをとりあげられ簿記・勘定理論の教育的・理論的意義を考究することの意義について述べられた。ついで司会兼コメンテータの浦崎 直浩氏（近畿大学）と佐藤倫正氏（愛知学院大学）とから、IFRS 導入等により変化する現代簿記会計のもとに簿記・勘定理論はいかにあるべきかについて意見表明がなされ、そのもとで各報告の意義と問題点等を指摘され、シンポジウムの展開に一定の方向性を提示された。

これに続く統一論題討論では、コメンテータが提示された問題提起とフロアーから松下真也氏（松山大学）、原俊雄氏（横浜国立大学）、中居文治氏（九州情報大学）、渡辺雅雄氏（明治大学）、島本克彦氏（関西学院大学）、郡司（大阪学院大学）等による質問をめぐって、報告者との間で活発かつ熱気あふれる議論が展開された。締め括りとして戸田座長が簿記・勘定理論めぐる今回の議論が簿記学会のレゾナートル（存在理由）にかかわるテーマであることを強調され、無事部会を終えることができた。

最後に、ご参加いただいた会員の方々ならびにひとかたならぬご助力をいただいた新田忠誓会長はじめ簿記学会役員の皆様には厚く御礼申し上げます。

日本簿記学会第 29 回関東部会記

準備委員長 千葉啓司
千葉商科大学

日本簿記学会第 29 回関東部会（準備委員長：千葉啓司）は、平成 25 年 6 月 15 日（土）に千葉商科大学で開催された。参加者は 101 名であった。統一論題は、「持分・資本概念の再検討」である。平成 17 年の会社法以来、従前の資本の部は純資産の部という表記に変更された。以来、資本概念、純資産概念について議論がなされてきているが、あえて問題提起のため、現行制度上の純資産概念ではなく持分および資本概念の再検討をテーマとした。当該テーマにつき倉田幸路氏（立教大学）の司会のもと、次の 4 氏による報告と討議が行われた。

第 1 報告は、石川文子氏（静岡大学）による「企業結合と資本概念—のれんの処理を中心に—」であった。同氏は、まず平成 25 年 1 月に公表された企業結合会計基準案をとりあげ、主要な改正点が親会社説から経済的単一体説への移行として説明できるとした。つぎに、こうした改正が国際的な会計基準（IFRS および FASB）に沿ったものであることを踏まえた上で、経済的単一体説に基づく純資産全体の公正価値評価は、全部のれんの計上につながり、子会社のどこまでを支配しているのかという資本の観点からのさらなる検討が必要であるとした。

第 2 報告は大雄智氏（横浜国立大学）による「連結会計基準と資本概念—支配アプローチと持分アプローチ—」であった。同氏は、連結会計における資産概念と資本概念の関連を、親会社説と経済的単一体説および支配アプローチと持分アプローチという 2 つの観点から検討した。支配アプローチのもとでは、資産は将来の経済的便益となり、資本は資産と負債との差額と位置づけられる。持分アプローチのもとでは、資産は未回収の投下資本となり、資本は株主の出資部分に限られる。氏は、伝統的な連結会計基準は持分アプローチ / 親会社説で説明でき、子会社株式の追加取得を資本取引とする近年の国際的基準は支配アプローチ / 経済的単一体説で説明できるとした。そして後者においては支配の概念が損益の認識だけでなく株主資本概念の範囲も決める重要

な概念となると指摘した。

第 3 報告は小野武美氏（東京経済大学）による「子会社増資と少数株主持分の会計的保全」であった。同氏は、子会社の少数株主が子会社の増資を引受けて親会社の持株比率が減少する場合でも、親会社の持分額が増大すれば利益が発生する点に着目し、この会計処理を検討することから子会社資本の時価評価の妥当性を主張した。まず氏は、親会社の持分増加額をみなし売却益とする現行制度について次の点から批判を加えている。①少数株主による子会社への増資引き受けは、少数株主の資本抛出に他ならない。②これを利益とみなす場合、個別企業において実現することのない利益となってしまう。このように現行制度の問題点を指摘した上で、少数株主持分も含めて増資直前に子会社資本を再評価することで、こうした問題は解決されると主張した。

第 4 報告は佐々木重人氏（専修大学）による「19 世紀イギリスの株式会社実務—資本区分の実態、その役割—」であった。氏の問題意識は、近代会計成立期にあった 19 世紀イギリスにおける株式会社の資本区分の実態を観察することにより、資本概念の意味を明らかにすることにある。当時の実例としてグローバー社およびロンドン・バーミンガム鉄道会社の会計報告書を詳細に調査することにより、次の点を明らかにしている。①配当金の支払継続に関心をもちながら資本を区分していた。②株式資本からの配当を排除するために、視覚的に効果的な報告書体系（複会計制度）が採用されていた。

統一論題討論では、4 氏の報告に対し、石川純治氏（駒澤大学）、今村猛氏（公認会計士）、梅原秀継氏（中央大学）、佐藤信彦氏（熊本学園大学）、田宮治雄氏（東京国際大学）、成川正晃氏（高崎商科大学）、中野貴元氏（㈱ユビキタス）、原俊雄氏（横浜国立大学）、半澤繁氏（神奈川大学大学院）、菱山淳氏（専修大学）、水谷文宣氏（関東学院大学）、から質問が寄せられ、活発な議論が繰り広げられ、本部会は盛会のうちに終了した。

最後に、ご参加いただいた会員の方々に厚く御礼申し上げます。

《賛助会員(出版社)の活動紹介》

賛助会員の活動の紹介として、今回は、ネットスクール株式会社 (<http://www.net-school.co.jp/> 営業 03-6823-6458 FAX 03-3294-9595) を取り上げました。

ネットスクール株式会社は、いかなる環境でも『簿記会計を平等に学べるようにすること』を目標とし、平等な媒体である「書籍」と「インターネット (WEBを使った生講義)」を通じて、簿記を中心とした資格教育を提供しております。

これまで、希望する高等学校には勿論ですが、商学や経済を学ぶ大学生の方にも、簿記の基礎的な内容を学んでもらいたいとの思いがあり、大学では、明治大学の国家試験センターに、いつでも受講できる試験対策の講義を無料で提供しております (但し、次のテキストを、学生さんにご購入いただいております)。この提供は、大学や高校等学校を特定したものではありません。簿記学会の先生方の簿記教育のお役に立てればと考えておりますので、大学・高校を問わず、ご利用下さい。また、興味のお持ちの会員の皆様にも遠慮なくお問い合わせ下さい。次の窓口で対応しております。

WEB 講座インフラ活用相談窓口
03-6823-6458 担当：原田

提供する無料講座は、以下のとおりです。

- 全国経理教育協会上級対策講座 全 30 回×2 時間
- 日商簿記 1 級対策講座 全 54 回×2.5 時間
- 日商簿記 2 級対策講座 全 16 回×2.5 時間
- 日商簿記 3 級対策講座 全 8 回×2.5 時間

上記 WEB 講座に使用するテキスト：

『日商簿記 2 級合格者が全経上級に合格できるテキスト【商業簿記・会計学】』
B5 判 定価 2,310 円 2013 年 3 月
ISBN 978-4-7810-0163-0

『日商簿記 2 級合格者が全経上級に合格できるテキスト【工業簿記・原価計算】』
B5 判 定価 2,310 円 2013 年 4 月
ISBN 978-4-7810-0164-7

『全経簿記上級過去問題集 出題傾向と対策』
AB 判 定価 2,520 円 2013 年 4 月
ISBN 978-4-7810-0167-8

『とおるテキスト 1 級商業簿記・会計学 I～III』 B5 判
『とおるゼミ 1 級商業簿記・会計学 I～III』 B5 判
『とおるテキスト 1 級工業簿記・原価計算』 B5 判
『とおるゼミ 1 級工業簿記・原価計算』 B5 判

『サクッとわかる日商簿記 3 級テキスト』
A5 判 定価 900 円 2012 年 4 月
ISBN 978-4-7810-1315-2

『サクッとわかる日商簿記 3 級トレーニング』
A5 判 定価 945 円 2012 年 4 月
ISBN 978-4-7810-1316-9

『サクッとわかる日商簿記 2 級商業簿記テキスト』
A5 判 定価 945 円 2012 年 4 月
ISBN 978-4-7810-1224-7

『サクッとわかる日商簿記 2 級商業簿記トレーニング』

A5 判 定価 945 円 2012 年 4 月
ISBN 978-4-7810-1225-4

『サクッとわかる日商簿記 2 級工業簿記テキスト』
A5 判 定価 945 円 2012 年 4 月
ISBN 978-4-7810-1219-3

『サクッとわかる日商簿記 2 級工業簿記トレーニング』
A5 判 定価 945 円 2012 年 4 月
ISBN 978-4-7810-1220-9

上記講座外の簿記テキスト：

『日商簿記 3 級とおるテキスト』 B5 判 定価 1,890 円

『日商簿記 3 級とおるゼミ』 B5 判 定価 1,680 円

『日商簿記 3 級とおるドリル』 B5 判 定価 600 円

※ドリルは直販のみのお取扱いです。とおる 2 級テキスト商工、ゼミ商工、ドリル商工もごさいます。

『出題パターンと解き方過去問題集 3 級』
B5 判 定価 1,680 円

『出題パターンと解き方過去問題集 2 級』
B5 判 定価 1,890 円

『出題パターンと解き方過去問題集 1 級』
B5 判 定価 2,100 円

全国経理教育協会簿記能力検定試験公式テキスト・問題集：

『全経 4 級公式テキスト&問題集』

B5 判 定価 1,050 円

『全経 3 級公式テキスト・問題集』

B5 判 定価各 1,260 円

『全経 2 級公式テキスト・問題集』

B5 判 定価各 1,470 円

『全経 1 級会計公式テキスト・問題集』

B5 判 定価各 2,100 円

『全経 1 級工業公式テキスト・問題集』

B5 判 定価各 2,100 円

2月10日は簿記の日です

福澤諭吉『帳合之法』の序文が明治6年2月10日に草されたのに因み、公益社団法人 全国経理教育協会が、日本記念日協会に登録し、制定されました。これに簿記学会としてどのように対応すべきか理事会で議論中です。

(注)『帳合之法』は Bryant and Stratton, *Common School Book-keeping*, 1871 の翻訳で、わが国初の西洋式簿記書ですが、福澤の「第一古来日本国中に於て学者は必ず貧乏なり……」で始まる趣意書きは、一読に値すると思います。

発行所
編集兼 日本簿記学会事務局
発行人

連絡事務所

〒101-0021 東京都千代田区外神田 5-1-15
株式会社白桃書房
e-mail boki@hakutou.co.jp
URL <http://www.hakutou.co.jp/boki/>